川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和８年　９月
川越町南小学校

本年４月、小学校６年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力･学習状況調査結果

（１）全体の傾向

国　語

正答率は、67%で全国の値（全国平均正答率）の 60.9%を 6.1 ポイント上回っており、正答数の中央値（※１）は 9.0 問で全国の値の 8.0 問を上回っている。

評価の観点（※２）別に見ると、「知識・技能」の項目（全国 62.0%）は 65.7%、「思考・判断・表現」の項目（全国 60.1%）は 68.4%で全国の値を上回っている。

領域別に見ると、知識・技能を測る「言葉の特徴や使い方に関する事項」が 68.6%で、全国の値 66.8%を 1.8 ポイント上回り、「情報の扱い方に関する事項」が 59.8%で全国の値 52.3%を 7.5 ポイント上回っている。思考力・判断力・表現力等を測る「話すこと・聞くこと」が 74.2%と全国の値 65.8%を 8.4 ポイント、「書くこと」が 61.4%で全国 の値 45.7％を 15.7 ポイント、「読むこと」が 66.7%で全国の値 65.9%を 0.8 ポイント、それぞれ上回っている。

一方で、問題形式が選択式、記述式は全国平均を上回っているが、短答式の問題については、全国の値 62.6%に対し、59.1%と 3.5 ポイント下回っている。

算　数

正答率は、61%で全国の値 56.4%を 4.6 ポイント上回っており、正答数の中央値（※１）は 10.0 問で全国の値 9.0 問をやや上回っている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」の項目（全国 60.1%）は 64.0%で、「思考・判断・表現」の項目（全国 45.4%）は 52.7%で、ともに全国の値を上回っている。

領域別に見ると、「図形」（全国 55.3%・本校 54.2%）のみ全国を下回ったが、「数と計算」（全国 61.1%・本校 68.4%）で 7.3 ポイント、「測定」（全国 78.1%・本校 84.8%）で 6.7 ポイント、「変化と関係」（全国 41.1%・本校 50.5%）で 9.4 ポイント、「データの活用」（全国 48.6%・本校 56.8%）で 8.2 ポイント、全国の値を上回っている。

※１　中央値

小さい数値（あるいは大きい数値）から順に並べたときに真ん中に来る数値のこと。平均値は極端に大きい/小さい値（外れ値）に引っ張られるが、中央値は外れ値の影響を受けにくい。

※２　評価の観点

学習指導要領において、児童が学校教育の中で身につけるべき力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に対応した形で評価する際の３つの観点

○「知識・技能」

各教科で身につけるべきとされている知識やスキル

○「思考力・判断力・表現力」

課題や問題に向き合って解決していく力や友だちと協働しながら問題解決の糸口を見つけていく力、自らの思いを表現していく力

○「主体的に学習に取り組む態度」

児童自身がいかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤する態度

→全国学力・学習状況調査においては、上記の３つの観点の内、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」の２つの観点を見るものである。

※３　学習指導要領の内容

学習指導要領において、各教科に求められる内容。例えば小学校国語科であれば「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」など、小学校算数科であれば「数と計算」「図形」「変化と関係」などに分かれている。

□設問別結果から見える各教科における主な「強み」と「弱み」

	強みと弱み　（強み・・・「◎」　弱み・・・「◇」）
国語	◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。 ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や、展開を考えることができる。 ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 **◇学年漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。**
算数	◎百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる。 ◎日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の３つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できる。 ◎示された２つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。 **◇立方体の体積の計算による求め方についての理解。** **◇直方体の箱の形を構成する面について理解。**

（2）児童質問紙による生活調査結果

① 基本的生活習慣

Q：朝食を毎日食べていますか。

・食べている児童の割合・・・・・・・・・・・・　全国：９３．３％

川越南小学校：９０．９％

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・・・・・・・・・・・　全国：８２．８％

川越南小学校：７７．２％

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・・・・・・・・・・　全国：９０．７％

川越南小学校：８７．９％

Q：普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

・２時間以上と答えた児童の割合・・・・・・・　全国：５７．６％

川越南小学校：５１．５％

＊　**就寝時刻と起床時刻は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した割合は全国よりもやや下回っている。**

また、平日にSNSや動画視聴をする時間は、５１．５％の児童が２時間以上となっており、全国を６．１ポイント下回っている。

朝食の喫食や起床時刻・就寝時刻と正答率のクロス集計を見ると、規則正しい生活をしている児童の正答率が最も良く、「どちらかといえば当てはまる」「どちらかというと当てはまらない」「当てはまらない」と下がっていく傾向が見られる。

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活リズムを整えることが大切である。

正答率との相関関係を見てみると、視聴時間が２時間を超えると、長時間になるにともない正答率も低下することが分かった。これは、長時間SNS等を視聴することで、家庭での学習時間や睡眠時間等が相対的に減ることが考えられる。

先述した規則正しい生活リズムとも関わるため、家庭でのタブレットやスマートフォン、ゲーム機などの使い方についても啓発を続けていく必要がある。

② 自己肯定感

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・あると答えた児童の割合・・・・・・・・・・　全国：８５．６％

川越南小学校：８０．３％

Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

・認めてくれていると答えた児童・・・・・・・　全国：９１．４％

川越南小学校：９７．０％

＊　**【自分には、よいところがあると思うか】の質問に対し、肯定的な回答は５．３ポイント全国を下回っている。昨年度と比較すると、肯定的に回答する児童の割合は低くなっている。**

一方、【先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか】の質問に対して肯定的な回答

は、ポイント全国を上回っており、９５％以上の児童が「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じており、非常に高い結果となっている。

本校では「豊かな心」を培うため、非認知能力を高めることや自己肯定感・自己有用感を育み、相手の個性を尊重することを大切にしている。この結果を踏まえ「豊かな心」を培うための自己肯定感・自己有用感を育んでいくことをより一層大切にしていきたい。

③ ICT 機器の操作に関わること

Q：あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

・できると答えた児童の割合・・・・・・・・・・　　全国：８４．９％

川越南小学校：８９．４％

Q：あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか

・できると答えた児童の割合・・・・・・・・・・　　全国：６９．５％

川越南小学校：７２．７％

Q：あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

・できると答えた児童の割合・・・・・・・・・・　　全国：７４．６％

川越南小学校：７２．７％

＊　【インターネットを使って情報を収集することができると思うか】の質問に対しての肯定的な回答は、４．５ポイント全国を上回っている。【ICT 機器を使って情報を整理することができると思うか】については小学校では３．２ポイント全国を上回っている。一方で【ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思うか】については、１．９ポイント全国を下回った。

本校では、様々な場面で ICT 機器を活用した授業を推進している。今後も必要に応じて積極的に ICT 機器を活用し、個別最適な学習を進めたり自分の考えを表現したりするためのツールとして使っていく力を育んでいきたい。

④ 学習習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・１時間以上と答えた児童の割合・・・・・・・　　全国：４９．９％

川越南小学校：４３．９％

Q：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・１時間以上と答えた児童の割合・・・・・・・　　全国：３９．０％

川越南小学校：３９．３％

＊　平日に１日当たり１時間以上学習すると回答する割合は、４３．９％で昨年度の５０．８％よりも６．９ポイント減少しており、全国を６．０ポイント下回っている。

また、学校が休みの日に１日当たり１時間以上学習すると回答した割合は、３９．３％で昨年度

の３２．７％よりも６．６ポイント増加しているものの、全国を０．３ポイント上回る結果となった。

この結果から、本校の子どもたちは全国に比べて、家庭での学習時間が決して多いとは言えないことが分かる。学校で出される全員に共通した宿題だけでなく、自らの疑問や関心から学びたいことを主体的に学んだり探求したりする時間もしっかりと確保できるようにしたい。

⑤ 読書習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

・３０分以上と答えた児童の割合・・・・・・・　　全国：２６．１％

川越南小学校：３３．３％

Q：あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。（雑誌、新聞、教科書は除く）

・１００冊以上の児童の割合・・・・・・・・・　　全国：３０．７％

川越南小学校：２７．２％

・　２５冊以下の児童の割合・・・・・・・・・　　全国：３３．８％

川越南小学校：３１．８％

＊　【学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をするか】の質問に「30分以上読む」と回答した割合は３３．３％で全国を７．２ポイント上回った。

一方、「まったく読まない」と回答した割合は４５．５％で全国を１９．２ポイント上回った。このことから本校では本を読む児童と読まない児童の二極化が進んでいると考えられる。

（4）学校質問紙の結果からみえる児童の姿と学校の取り組み

① 言語活動の充実と自分の考えを深め、表現する力を育成する取り組み

学習指導要領に沿った教育活動が行われる中、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等を育むとともに、言語活動など学習の基盤をつくる活動の充実に努めている。

【学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているか】という質問に対し、昨年同様に８割の児童が肯定的回答をしており、相手を意識して自らの意見を伝える力が着実に育っている。

一方で、表現力の応用となる【自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか】の質問に対しては、７割の児童が肯定的回答という状況であった。今後も「自分の考えを相手にうまく伝えられるスキルを身につけたり、工夫したりする力」を育てていきたい。

② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

児童質問紙の【学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているか】、【学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか】という質問に対して、どちらも８１．８％の児童が肯定的回答をしており、主体的・対話的で深い学びの実現に向け

た授業改善が定着し、概ね子どもたちの実感に繋がっていると捉えることができる。

しかし、１８．２％の児童が否定的回答をしているという状況は看過できない。引き続き「一人も取り残さない授業づくり」を行っていきたい。

③　自己肯定感・自己有用感の育成（自尊感情）

【自分には、よいところがあると思いますか】という質問に対し、８０．３％の児童が肯定的回答をしているが、１８．１％（無回答１．５％）の児童が否定的回答をしていることに目を向けなければならない。

一方で、【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか】に対し肯定的に回答した児童は９７％であった。教師が学校生活のあらゆる場面で児童を「見取り、認め、褒め、励ます」温かい関わりは引き続き継続していきたい。

また、児童の自己肯定感や自己有用感は、家庭や地域と一緒に育てていくことも重要である。今後も家庭・地域・学校が三位一体となり、子どもたちの良さを様々な場面で評価・承認していきたい。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」や引き出すべき資質・能力を明確にする。単に「何を学ぶか」という指導内容にとどまらず、「何ができるようになるか」を重視し、「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの視点から、学習過程を大切にした授業改善を組織的に推進する。

（１）「目標（めあて）の提示と振り返り活動」のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の見通しを持ち、授業の中で「できた・わかった」と実感できる学習過程を構築する。

（２）主体的・対話的で深い学びの視点から、組織的な授業改善を継続する。

（３）一人一台端末をはじめとする ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進める授業改善を行う。

（４）自らの考えが相手に分かりやすく伝わるよう、理由や事実などの根拠を明確にして文章を書いたり、発表・表現したりする指導を徹底する。

（５）児童一人ひとりの学習状況やつまずきを確実に捉え、少人数指導による効果的な指導を行う。

国　　語

1.　基礎的な力をつける時間の確保

・ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着に向けた取り組みを進め、学力の底上げを図る。

・「漢字を文の中で正しく使う」ため、単なる漢字の書き取り（暗記）にとどまらず、文脈の中で漢字の意味を正しく理解し、生活や文章の中で適切に使いこなす指導を日常的に行う。

2.　書くことの指導の充実

・書く活動において、児童の興味関心に応じた題材を設定し、子どもたち自らが書こうと

する気持ちを高める手立てを講じ、児童が主体的に取り組めるように工夫する。

・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。(国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく。)

・自分の考えを文章として書く際には、自分の考えの根拠となることを明らかにしながら書く活動を取り入れていく。

3. 読む力を育成する指導の充実

・説明文においては、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけられるような指導を行えるようにしていく。

・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

・小学校における「目的に応じて、必要な情報を見付けること」や、中学校における「目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること」という課題に対応するため、説明文や図表・グラフ等の異なる情報を適切に関連付け、必要な情報を素早く正確に抽出・整理して読み取る指導を強化する。

4. 自分の考えをまとめる活動の充実

・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。また、発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。なお、この取り組みは国語科のみならず、他教科においても系統的に行う。

・自分の考えをまとめたものを友だちと共有する活動を取り入れ、自分の考えと比較し、新たな考えを知りながら、考えを深めていく活動を取り入れる。その手立てとしてICT機器の効果的な活用を進めていく。

・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、まとめたものを発表する活動につなげていく。

算　数

1. 基礎的な力をつける時間の確保

・基礎となる内容の定着のために、丁寧に指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

・領域別で「図形」のみが全国平均を下回ったこと、および「立方体や直方体の体積の意味、計算による求め方、箱の形を構成する面についての理解」が弱みとなったことを踏まえ、具体物（模型等）を実際に操作する体験的な活動を重点的に取り入れる。数量や図形についての空間的な感覚や実感を伴った直感的な理解を促す指導を徹底する。

2. 児童の「わかった！」を大切にした授業展開の工夫

・子どもたちの生活に沿った身近な課題を見出し、児童が主体的に取り組める授業を展開していく。また、学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。

・既習事項をもとにした応用問題等に取り組ませ、子どもたちが学び合う中で、その解決方法を見い出せるような学習活動を取り入れる。

・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けて考える授業を取り入れる。
・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
・個々の子どもたちの強み・弱みを把握し、少人数による学習活動を進める。
・ICT 機器を活用した個別最適な学びを進める。

3. 自分の考え方や求め方を説明する

・算数・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
・ICT 機器を効果的に活用し、個々の児童の考え方や求め方を交流したり、自分の考え方をまとめたりする。

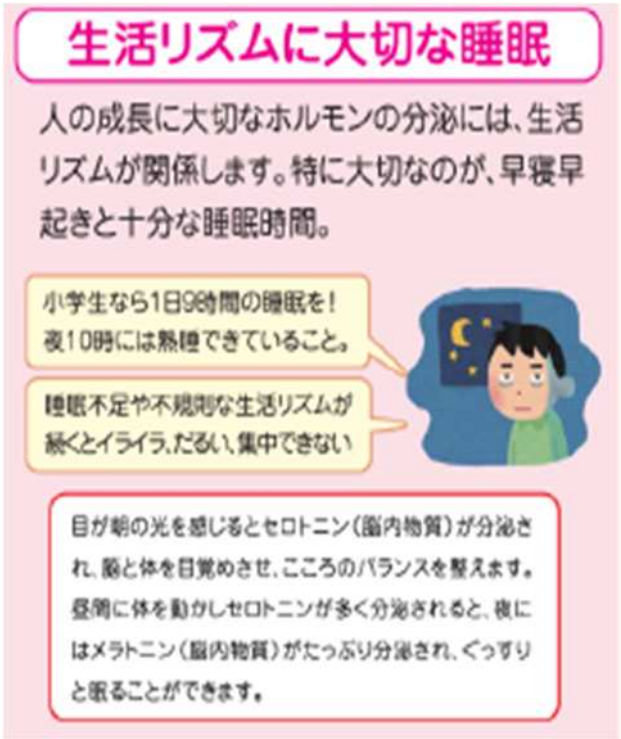


4. 家庭・地域へのお願い

（1）基本的生活習慣を定着させる

夜の就寝時刻が乱れてくる原因の一つにテレビやスマートフォンの視聴時間が考えられます。家庭内のルールを子どもたちと一緒に会話をしながら作っていただきたいと思います。また、作っていただいたルールが守られているかどうかを見届けていただきたいと思います。夜の就寝時刻が乱れてしまうと朝の起床時刻にも影響し、すっきりとした目覚めができなくなってしまいます。また、そのため朝食をしっかり食べずに登校してしまうことになります。朝食は午前中を元気に過ごすための大切なエネルギーのもとになります。

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活が送れるようにしていきましょう。





引用元：三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課発行「みえ家庭教育応援リーフレット」より

（2）家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》

・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
・机の上を片付けてから勉強する。

《保護者》

・テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、各家庭でお子様とともにルールをつくる。
例）毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。
夜の１０時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。　など
・カレンダーに「〇」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

（3）ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果から、14.5％の児童生徒が、「自分にはよい所があると感じられていない」という状況が見られました。子ども達はそれぞれに得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、**過程を大切にして**、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

（4） 家庭で読書をする時間を増やす・・・親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘もあります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。また、おうちの方が読まれた本やお気に入りの本を子どもに紹介し、本に対する興味を持たせるようにしていきましょう。

（5） 子どもたちの『豊かな心』の育成に向けて、五つの「ＳＨＯＷ」で子どもと関わりましょう。

五つの「ＳＨＯＷ」は子どもに接する時の心得ですが、同時により良い生き方のモデルを子どもに見せることにもなります。五つの「ＳＨＯＷ」を心掛けたかかわりを通して、保護者も子どもも

ＳＨＯＷ１：コミュニケーション能力を高めましょう

コミュニケーション能力は、自主性・表現力・理解力・共感力・協調性などにつながります。そこで、ご家庭でも豊かな会話によるコミュニケーションを心がけましょう。

ＳＨＯＷ２：待ちましょう

子ども自身で考える力を育てるためにも、できる限り自分で考えて行動できるように待ってあげてください。子どもの意欲、自主性、自立性などにつながります。

ＳＨＯＷ３：疑問をもつように誘いましょう

普段の生活の中で「どうして○○は□□なのかな？」「なぜ、△△なのかわかる？」と問いかけることも興味・関心を育てることにつながります。また、子どもの疑問には、ていねいに根気強くつきあいましょう。

ＳＨＯＷ４：思いやりにつながるように、家庭内のルールづくりをしましょう。

家庭内のルールづくりは、子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

ＳＨＯＷ５：感情に任せた暴言は、やめましょう。

状況により、どうしても叱らなければならない場合もありますが、とっさに言い返したりするようなことは絶対にやめてください。その時は「６秒以上の間深呼吸」などのアンガーマネジメント、すなわち怒りをコントロールし、子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をしましょう。

